

が、六十一年度からは橋本理事、松田評議員、飯野、西村、高遠各財務委員の努力で、小さいながら電算機が導入され、業務の能率アップが計られたことは、事業報告には載っていないがお知らせし、関係者に御礼申し上げたい、と挨拶があった。

▽昭和六十二年事業計画案について高遠理事から説明があった(関係資料は14ページに掲載)。

逐一、資料を読み上げながら補則説明を加え、地方ブロック懇談会京都大会が総会前の支部長会議で、十月三十一日、京都で講演会、夜は比良山に移動し、そこで懇親会、翌十一月一日に登山、と決ったこと、「山岳」総索引は総目録のようなものであること、

「登山施設の改善、その他登山のための適切な事業」の項目のうち「山に関する貴重なフィルム、スライド、テープ、アルバム等の複製および貴重な資料の収集、整備、管理」は、将来の山岳博物館建設に向けてのもので、新しくもつけられた項目であること、などの説明があった。

▽六十二年度予算案については橋本理事の説明があった(関係資料は12ページに掲載)。

収入の部では、新入会費を例年通り二百名として入会金収入を計上した。会費収入は会費値上げによる増加分、事業収入は前年度並み、雑収入は受取利息が減少して

いる。

支出の部は前年の総会で決った一人当たり千五百円の戻しを支部運営費に計上し、支部関係の催しなどに対する支出を支部関係費として、計上した。

以上の結果、前年度より収入支出とも増加しているが、収支差額は百万円程で、これは前年度の繰越金で処理でき、本年度は健全な財政運営が出来るものと思う、と説明があった。

(一号、二号議案は拍手をもって承認された)。

▽第三号議案は昭和六十二、三年度理事、監事および評議員選任について、関係資料は予め総会資料とともに会員各位に配布されたところだが、会長・今西寿雄(再任)、副会長・大塚博美(再任)、

会長・村木潤次郎(新任)、理事・鳴原啓佑、鈴木邦之、大橋晋、永敏郎、橋本清、浜口欣一、大森久雄、岡沢祐吉、新井陽一郎、関塚貞亨、太田晃介(以上再任)、織田沢美知子、田部井淳子、西村政晃、早坂敬二郎、小林政志、勝山康雄(以上新)、監事・山本健一郎(再任)、太田敬(新)、評議員・

松田雄一、近藤信行、宗実慶子、大森薫雄、中世古隆司、田中弘美、安間莊、佐々木豊喜、越智英夫(以上再任)、広羽清、山田二郎、小倉董子、大島輝夫、川上隆、杉野目浩、日下田実、山野井武夫、平林克敏、中島寛、沢村幸蔵(以

通常総会での

今西会長挨拶

皆さん本日は六十二年通常総会に出席をいただきまして有難うございました。

本日、昭和六十二年の総会を開くにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

会の現状は、のちほど事務報告がございまして、三月末、会員数は四二〇名、新入会員二〇六名、復活会員一三名、物故・退会会員一〇四名で、昨年より一五名増となっておりますが、昨年度は平沢一郎名誉会員、村井米子名誉会員、中屋健二名誉会員、金坂一郎監事が亡くなられたのをはじめ、物故者が二四名おられます。のちほど物故者に対して黙禱致したいと思っております。

一昨年の六十年は日本山岳会創立八十周年記念行事で終始しましたが、昨年の六十年も立教大学のナンダ・コート登頂五十周年の年であり、戦後初の日本山岳会のヒマラヤ登山であったマナスル登頂三十周年の年でもありました。私も三十年ぶりにマナスルのベースキャンプまでトレッキングして参りました、たいへん感慨深いものであります。

また六月にはポーランドから冬季ヒマラヤ登山で目覚ましい活躍をしておられる岳人が七名来日されました、交流をはかることができました。また夏には松本市で国際アルピニスト大会が開催され八カ国の岳人が集り、国際交流がはかれました。また海外登山では東京農大のチームがコンロン山脈の最高峰七一六七に初登頂され、また青森県ではニージーランドのマウント・クック国際キャンプに代表を派遣しております。昨年の総会では支部の活性化をはかるため地方ブロック懇談会を開催することが計画されていましたが、宮崎支部ほか九州の各支部の協力で十一月に『九州山

のつどい宮崎』が高千穂で開催され、成功裡に終了しております。また越後支部、信濃支部が支部設立四十周年、岐阜支部が十五周年を迎えて記念行事が行なわれました。

昨年の総会でも申し上げましたが、中国登山協会より申し出があった三合同登山の計画も具体的に進展し、会報でも報告されておりますように、中国、日本、ネパール三国のチョモランマ／サガルマタ交差縦走登山を一九八八年五月に行なうことで、今年の二月二十四日、北京において三合同登山議定書の調印を終え、具体的な実施作業に入っております。

この三合同登山は日本山岳会としても成功させるために慎重に準備をすすめておりますが、会員各位のご協力とご支援が必要であります。登山に必要な経費につきましては、読売新聞社、日本テレビより出ることになっておりますが、それだけでは不十分であり、一部、外部から寄付を受けるよう募金計画をしております。会員各位からの募金も計画しております、会員各位に対するお願いを近日中に会報などに出す予定にしておりますので、皆様がたのご協力をお願い申し上げます。

総会議題と致しまして、六十一年度事業報告収支決算報告、また六十二年事業計画案、収支予算書が提出されておりますので、充分ご審議をお願いいたします。また本年度は役員改選期でもありますので、評議員会、理事会からの推薦のありました候補者については、皆様に前もってご通知致しておりますが、よろしくご審議いただきしたいと思います。

本年度の地方ブロック懇談会は京都支部が主催して下さいます、本年十月末、十一月初め比良山系で行なわれることが決定されております。東京でも年次晩餐会には全国より多くの会員が参集

上新)の四十二名は、異議なく拍手をもって承認された。

▽第四号議案は昭和六十二年度の除籍対象者名簿(10ページに掲載)だが、議長より、折角入会されたのであるから、会費を納入し、会員登録を継続するよう、知り合いの各位から説得をお願いしたいと要請があった。

以上で審議は終了したが、散会する前に、新任・再任の理事、監事、評議員の紹介があって、懇親会が開かれる別室に移った。

懇親会では、任期を終えた理事、評議員へのねぎらいの挨拶が今西会長よりあり、続いて吉沢一郎名誉会員の音頭で乾杯し、午後八時を回ったところで、村木新副会長の簡単な就任の挨拶がありお開きとなった。

当日はJACオリジナル製品(オルゴール)四千円、ネクタイ



吉沢一郎名誉会員が乾杯の音頭をとる

五千円、略章五千円、正章五千円、Tシャツポケット付五千円、Tシャツ八十周年記念二千円、ペーパーナイフハーケン型五百円)が販売された。(記事・岡沢祐吉／写真・武居台三)

ピッケルの渡来と製作(中)

広瀬 潔

野中至のピッケル創作

ウェストンの春期富士登頂から僅か三年後の明治二十八年二月十六日、高山気象観測の先覚者野中至が単独で厳冬の富士初登頂に成功したことは、日本の登山史に驚異的な記録を残した。野中は富士絶頂剣ヶ峰に小屋を建て、越冬

気象観測を行なう計画を抱いていたので、厳冬の富士山頂の状況を見るため、この登山を試みたのであった。

一月四日の第一回登山の際は、堅い氷雪面で鳥口が破損したため、五合目から引返している。直後、ヨーロッパでは氷雪期の登山

会長挨拶されておりますが、今後、地方で開催されます地方ブロック懇談会には、各支部から多数の会員が参加していただき、地方支部の活性化をはかるよう、皆様がたのご協力をお願いしたいと思っております。また同様に、自然保護全国集会在が毎年、場所

を変えて行なわれ、各地での自然保護活動の推進を計っておりますので、多くの会員の参加をお願いしたいと思います。今後とも会員各位のご協力をお願いして私の挨拶と致します。

に「日本古来の鶴嘴」のようなものを使っていると聞き伝えたので、第一回の経験から鶴嘴を改造して、独創的な杖を考案した。鍛冶屋に作らせて、第二回登山に使用、登頂に成功したのであった。この杖はその後御殿場郊外滝河原の野中邸屋根裏物置に所蔵されていたが、大正十二年の関東大震災の時、建物とともに壊滅して終ったのは惜しい。

大正十四年以来鎌倉在住の広瀬は、茅ヶ崎や逗子に隠棲していた晩年の野中至をしばしば訪れ、懐旧談を聞いた際、本人にその杖の「記憶図」を描いて見せて貰ったところ、現在のピッケルとほぼ同じ形なのに驚いた。

広瀬は昭和九年八月発表した論文「氷雪期富士登山の文化史的考察」のなかで、この杖のことを「独創的金具付登山杖(現代のピッケルとほぼ同型、但しピッケルは著しく短し)」と記述している。これを「国内製作ピッケル第一号」とみてよいのではないか。但し野中は当時「ピッケル」という名称を知らなかったのだ、登山記には単に「鶴嘴」と書いているが。

(付記)野中至はその年の夏、山頂剣

ヶ峰に私設気象観測小屋を建て、食料・寝具・衣服・燃料・器械その他一年間の滞在に必要な物資を運び上げ、九月三十日登山、観測を開始した。千代子夫人も単独山頂に留る夫の身を按じ、自ら意を決して三歳の女児を獨りに残して、十月十二日に登山、夫を扶けることになった。しかし間もなく高山病にかかりひと月苦しんだが、その後、夫の野中も同病に冒され、ともに苦難のなかで、相扶け合い観測を続けた。十二月十二日山麓玉穂村村長と強力が様子を見に小屋に辿りつく

と、野中はすでに病重く膝に藁を当ていざりながら観測を続けている惨状を目撃して、下山後各方面に急を告げた。文部・内務両省の指令で、中央気象台の和田雄治技師が率いる救難隊が組織され、十二月二十一日登頂して夫妻を救出した。野中は下山の途中強力が、ひと晩八合目小屋で手当を受けたが、意識を取り戻し、翌日無事下山、東大から派遣された三浦謙之助教授の治療を受けた。後年野中至の「第一回・第二回の登山記」「滞頂記」、千代子夫人の「芙蓉日記」「和歌集」を初め、多くの作家が、これを主題にした小説や戯曲が残され、演劇化や映画化が行なわれている。深田久弥は「明治二十八年」といえば、わが登山界に「冬山」と

いう概念はおろか、ようやく志賀重昂の「日本風景論」が出て登山の風潮が起りかけたばかりの頃である」と述べているが、その当時、野中至の厳冬期富士単独初登頂が行なわれ、また夫妻の秋・冬期八十二日間滞頂が実行されたことは驚異に値する(日本山岳会創立より十年も前のことだ)。

(付記1)

ピッケルを手に握る鳥水の戯画

山をきれいにグミは持ち帰る



明治四十五年発行の小島鳥水著「日本アルプス」(第三巻)には英木猪之吉が描いた「ビックケルを握った鳥水の画」が載っているが、その頃、鳥水はまだビックケルを使った山登りをしていなかったから、ビックケルは持っていない。だから英木猪之吉の作品は「戯画」だった、と思う。

(付記2)

その後、鳥水が入手したビックケル。それから間もなく(大正四年アメリカへ転勤する前に)、鳥水は高野鷹蔵の紹介でヨーロッパからの輸入ビックケルを手に入れている。鳥水の子息で当時少年だった車太郎はそのビックケルに「ライオン」のマークがついていた、と記憶している。

アメリカに渡った鳥水は、別に同地で長柄のビックケルを買って、滞在中、氷河のある多くの山々で使っている。現にフツド山でそれを携えている鳥水の写真も残っている。ビックケルは帰国の際持ち帰ったが、車太郎の話では、「当時のアメリカ物はまだ鋳物製の粗末なものだったので、前記ヨーロッパ製のものといっしょに、家庭で新割りなどに使い、結局、行方が分からなく

報告・

講演会

「厳冬の白頭山を語る」

〔昭和六十二年四月二十七日(月)、十八時三十分より、日本山岳会集室〕

にて。講師高橋通子氏、青根委・海外委共催

なつて終つた」と。惜しいことだ。今残っていたら当然博物館行きだったのに。

帰国後、鳥水は余り山登りをしなかったし、その頃から優秀な「国産特殊鋼ビックケル」(後記山内・門田)が出始めていたので、所持の古物を軽くみていたのではない。

小杉未醒のビックケル絵

小島鳥水のビックケル戯画以前、



漫画家小杉未醒が明治四十年発行の「山岳」(第二巻第一号)の表紙に「二人の登山家の姿」を画いている。アルペン・ストックのようなのを杖につき、腰にロープ、ルックの上にビックケルを差し、チロル風の帽子を被っている。

このように明治四十年代には早くも「ビックケル」の絵が登山界に現れていた。

(以下次号)

海外の山

ソ連隊のカンチ縦走計画

「再びヒマラヤへ!」——旅や冒険の世界を紹介しているソ連の月刊誌「ツォーリスト」五月号にこんな見出しの記事が載っている。

リードはこんな具合。「エヴェレストの勝利の嵐から五年、ソ連のアルピニストたちがカンチエンジュンガを目指している」。たまたまモスクワを訪れる機会があったので、記事の中でカンチエンジュンガ計画について語っている国家山岳指導員(この肩書を持つ者はソ連に一人しかない)のB・シャターエフ氏に会って話を聞いた。

八四年の日本山岳会隊も成しえなかった、南峰(八四九一m)、中央峰(八四七八m)、主峰(八五九八m)、そして西峰(八五〇五m)の完全縦走が、ソ連隊のねらいである。「中央峰からいったん下ったJAC隊のように」途中トラヴァースせずまっすぐリッジを登っていきなさい」と十年ぶりに会ったシャターエフ氏は言っていた。

一九八二年、初めてネパール・ヒマラヤを訪れたソ連の山男たちがエヴェレストを南西壁左の新ルートから西稜経由で登った時の強さは、力にあふれてというかそれまでのヒマラヤの登り方と一味違ったものだった。固定ザイル、酸素を使い、決して前衛的という登攀ではなかったが、十二人の登攀メンバー中、十一人までがこの難ルートから頂上に立ち、勝利を誇示したのである。

一九八九年に予定されているカンチエンジュンガでも全山縦走は、可能性の段階ではなくすでに現実のものとしてとらえられているだろう。今度も酸素は携行し、万全を期すという。「無酸素が

世界的な潮流ということは知っていますが、われわれは危険を犯したくはないのです。使わなくても済む人は使わないかもしれないが、原則は酸素使用です」

登山隊は三十人から成り、うち十人は医師、トレーナー、映画撮影などのスタッフ、登はんメンバーは二十人という。最強のメンバーを選び出すためにこの冬にはコーカサスの山に四十人の登山家を集めて訓練合宿をし、六月から七月にかけてはパミールの山でメンバー選考のための新たな合宿をしているはずだ。

エヴェレストの時女性はいなかったが、カンチエンジュンガでは目下四人の女性クライマーが候補にあがっている。三十から三十二歳といずれも盛り盛り(そんな言い方が許されるなら)。中でもレニングラードのエカテリーナ・ペレツカヤは、コムニズム峰(七四五五m)などソ連の四つの七千m峰に登った者に与えられる「スニエージュスイ・パルス(雪ひょう)」の称号を持つ。

「この合宿ではホフプロフ峰からコムニズム峰までの縦走を課題とします。ちょっと難しいルートですよ」

ちなみに四つの七千m峰とはコムニズムのほかポベダ(七四三九m)、コルジニエフスカヤ(七一〇五m)、レーニン(七一三四m)各峰のこと、これまでに百八十六人が四峰登頂を果たして「雪ひょう」称号を授与されている。うち女性は八人だそう。

この春にはエヴェレスト隊のベルショフ以下六人がネパールに行き、偵察を済ませてきた。中央峰から主峰へのダイレクト登高、主峰から西峰へのリッジ・トラヴァースなどJAC隊が果たせなかったカンチ縦走の核心部をどうこなすか、楽しみである。

(江本嘉伸)

朝鮮民主主義人民共和国になって初めて厳冬の登山が許され、高橋通子隊長と、カモシカ同人のメンバーが白頭山やその他の山へ登頂されたが、その折のVTRをまじえ、高橋さんのおはなしを伺う集いは、四十五名の参加者を得て盛会であった。

私がこの講演会に参加した理由は、どうして北朝鮮の山々に登ることが出来たのか非常に不思議に思うと同時に、大変興味深い山なので参加した。高橋さんは、私達が登山出来たのは参議院議員の宇都宮徳馬氏の甚大なる努力と尽力に依るものと話された。彼女は氏の姪である。過去十二年間に十回に亘るヒマラヤ登山を実施し、八回の登頂成功と、無事故の実績を持つ高橋さんを隊長とする登山を通して、日朝友好親善を計ることは大いに意義がある、と考えられた宇都宮氏が、金日成氏に親書を送り、金日成氏から許可が降り、登山をすることが出来たという点を高橋さんは強調されていた。

北朝鮮の人々の登山熱は非常に盛んであるが、スポーツの登山ではなく楽しみの登山であって、厳冬期に登ることは決していないそう。しかし、山道は非常に整備さ

れ、山麓には野外活動のための小屋も非常に立派なものができていた。今回の登山隊は、金剛山、白頭山、妙香山を目的とした。最初、金剛山に登ったが、二月の雪はかなり深く、雪崩で苦労したが、鉢峰からの日本海の眺めは素晴らしい。金剛山でのフィナーレは、晴天に恵まれ最高だった。白頭山は、金日成主席の革命の聖地であり、戦後、外国人は誰も登っていない。コースは、鴨緑江の源流をさかのぼり、頂上に至るコースを取った。山麓の丸太小屋までは楽に入ることが出来たが、森林限界付近から強風となり、地吹雪で視界がきかなくなり非常に苦労したが、人民軍兵士などに見守られ、主峰將軍峰頂上に九名の全隊員が立つことが出来た。最後の山、妙香山では、地元の人達が大歓迎してくれ、除雪をしてくれたが、登山道は避け、氷瀑を登った。ピッケル、アイゼンもよく効き、大変快適でたのしい登山が出来た。

(当夜講演会に参加の中保氏記)

奥秩父若御子山

(61年度さよなら山行)

62・3・29

婦人懇談会

今年もさよならで会いましょう

図書紹介

Trekking in the Indian-

Himalaya

by G. Weare

ヒマラヤのガイドブックは今では珍しくなくなったが、インドヒマラヤのものはこの本が最初である。著者は十年以上イン

ドヒマラヤを歩き、トレッキング会社も経営している。ガルワール以西の主要コースのていねいな紹介に加えて、そこで生活する人々のことや歴史が書き込まれていて、地域を知る上でも参考になる。(児玉茂)

Lonely Planet 1986 160p. 4,495

ほろびゆくブナの森

工藤父母道著

「ジャパン・パッシング」などという言葉が日本の新聞に出てくる世の中になってしまった。経済効率一本槍でワキ目もふらずにすすんで、ふと気がつけばこのありさま。なにかとんでもない大事なものを、はるか後ろに置き忘れてきてしまったのではないだろうか。そし

て、いまた置き去りにされようとしている大事なものの一つがブナの森ではないだろうか。山を、特に東北北部や東北の山を歩いたことのある人なら、残雪期の、夏の、秋のブナの森の美しさを忘れることはないだろう。

日本は、西日本の平野部を除いて、かつてはブナの王国だったとこの本は語る。ブナの持つばかり知れない価値が、確たる将来設計も思想もなしに乱伐され、「役に立たない」として他の単一の樹木に変えられてゆくそのおそろしさが、鳥肌立つようなおもしろいこの本から伝わってくる。

「この国から一つの種が消えてゆくことは、とりもなおさず私たち自身の未来へつながる糸が、一本切れてしまうことにはかなりません。……人の思想・信条や価値感が画一化された時代が危険であったように、それは自然についても同様のことがいえます」と工藤氏は訴える。「自然や伝統的生活文化を大切にしない文明、一次産業を大切にしない国は、やがてはろぶことを歴史は私たちに教えて

います」といわれれば、いま日本のブナの森がかかえている問題が、山歩きの趣味の段階を越えて大きく私たちの前にのしかかってくる。それは、私たちの山歩きのたのしみを、そしてより大きな私たちの生活の将来をも支配してくる黒い影にほかならないことを知らされる。

一九八六年九月、岩波書店刊 岩波ブックレット 定価二五〇円 (大森久雄)

松方三郎コレクション

「浮世絵美人画 名品展」カタログ

会では小島鳥水さんにつづく浮世絵のコレクション、故・松方三郎さんの蒐集品の中、美人画八十七点をえらんで、五月に東京でひらかれた展覧会の目録である。春信から国貞まで柱絵、団扇絵を加えたもの。図録の末頁にくわしい年譜が加えられている。

昭和六十二年五月一日 浮世絵太田記念美術館 八七頁 定価一、九〇〇円(小野幸)

図書紹介

共にダム底に沈むという。

地図には載っている若御子の部落は、枝打ちもされていない松や杉の斜面と、半ば土に還りかけた廃屋と石積みだけになっていた。曇り空のせいもあるが、ほとん

ど見晴らしのきかない杉林の中を地図をたよりに登る。武甲山の石灰採掘に動きまわるパワースイッチの音が聞こえてくる。

踏跡のはっきりしない藪こぎの割には、日当りの良さそうな尾根に幾基かの祠が祀られてあり、山村の人々のこの山に抱いた深い思い入れが見る者の心にも伝わってくる。

頂上へは思ったより早く着いた。こも杉林に囲まれて見晴らしはきかない。三等三角点の傍で昼食。婦人懇談会の年度末山行と

東西南北

『黒部』

―岩橋崇至写真展―

会場と会期

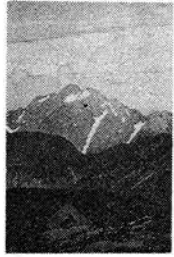
8月20日～25日 神戸・三ノ宮さんちかギャラリー

8月28日～9月2日 富山・西武デパート

そのほか大阪、名古屋、札幌にて開催の予定。

吉田 博・木版画展

飛騨や赤石、さらにはアルプス、ロッキーの山々の版画でなじみ深い吉田博の作品展が、去る五月十四日～二十日、東京、上野の森美術館で開かれた。すでに吉田博の版画は、リッカード美術館ほかで過去に何回か



あつて秩父ワインで乾盃。下りはワイン機嫌でいささか強引に藪の中を走り下る。山は新芽の色でかすみ、里は紅梅の花ざかり。名にし負う武州中川の枝垂れ桜は車窓を瞬時に飛び去って、秩父路に早春の花を訪ねる旅は終わった。数反の秩父銘仙が池袋に着くころは雨になっていた。参加者 関塚貞亨、織田沢夫妻、野崎真知子、梅野淑子、早川瑠璃子、門井照子、松永康子(係)佐藤知恵子(九名) (松永康子)

見たことはあったがこれだけの質と量は、初めてであった。木版画全作品二五〇点余とい、その一つ一つを丹念に見ていたら、とても時間が足りない。木版でどうしてこんな色調が、と不思議に思えるような淡い色がことのほか私にはみごとなものに思えた。展示作品を収録した『吉田博・全木版画集』が阿部出版(東京都目黒区上目黒四一三〇一一二)から発行されている。定価五八〇〇円。(大森久雄)

八ヶ峰へ記念山行

京都支部

六十一年三月十五日、京都支部が設立され、早一年が経過しました。四月四日に京都府北桑田郡美山町の民宿「森茂」(会員森茂明氏経営)で六十一年度の支部総会が開かれ、事業報告、会計決算、六十二年年度予算案などが原案通り可決されました。

総会後の祝宴は、森氏ご一家の心づくしの料理と今西錦司、谷博会員などから差し入れの酒やビールでなごやかに進み、いろいろを囲んで夜遅くまで話がはずみました。吉本興業所属の会員大畑恵子氏(芸名古賀せん専太郎)のアトラクションは新年会に続いて大好評でした。

翌五日は福井県境にある八ヶ峰(八百〇)へ記念登山し、初夏を思わせる好天のもと、二十六人が登頂しました。

出席者 秋野子弦、秋野弥寿子、朝倉英子、雨宮喬、阿部恒夫、荒木真弓、岩坪五郎、岩坪吟子、上原泰行、遠藤慶大、大西康郎、大畑恵子、小田孝、賀島増造、川見博美、久我良房、久我文子、近藤薫、酒井敏明、酒井幸子、坂井久光、四手井靖彦、四手井鞠子、新道弘之、杉山イタル、高島法男、野村誠人、伏見紀子、伏見耕太郎、伏見雪子、幣内典男、森茂

秋田支部総会報告

明、八木昭二、横田明男、(高島法男)

昭和六十二年年度の秋田支部総会は、去る四月十八日午後三時より、秋田市の協働社ビルにおいて開催された。

佐々木常務委員の開会のことばに始まり、岡田支部長の挨拶。支部長を議長に指名し議事は進行された。

◎昭和六十一年度事業報告

◎昭和六十一年度決算監査報告

◎昭和六十二年度事業計画

山行(春・東島海山、秋・小安岳)、会報発行一回、その他

◎昭和六十二年年度予算案 十四万円。本会還元費の増収により会費の値上げを凍結。

◎その他 東北シンポ岩手集会への参加、来年予定の秋田集会地を泥湯温泉に内定。その他

◎支部会員確認 五十七名。支部費未納(三年間)の会員三名については、各種案内・資料等の送付を差止める。以上承認され、続いて役員改選に入り、懇親会の後、午後七時過ぎ散会した。

▽新役員は次の通り 支部長(岡田光行)、副支部長(福田文二)、常務委員(佐藤兼治、佐々木民秀)、委員(進藤昭、

佐藤昭義、藤原健、北林嘉鶴子、高橋守、打矢道雄、監事(柳谷正義、子吉郎郎)

(佐々木民秀)

行事報告

岩手支部

支部総会

八十七年度、新役員が五月二日、遠野市での総会で次の通りに決定しました。(また六月六日、東北地区集会の実行委員も兼務する)

☆支部長 佐藤敏彦

☆委員

◎総務 菊地修身、棚田房男(新)

◎指導 小野寺正英、高橋後紀、二上純一(新)

◎科学 石村実、中谷充

◎自然保護 近藤有慶、松田和弘(新)

◎地区 鹿野松男、関口宏、渡辺博厚(新)、立花幹雄(新)

☆監事 田鎖寿、藤岡知昭(新)

かぬか平例会山行

○五月二日、エゾエンゴサク咲く砥森山へ、遠野市海老藤旅館泊

○五月三日、近藤有慶氏夫妻の先達で、雨中、枯松峠より愛染山往復、前後と同じ宿

○五月四日、前年登り残しの、ウサギコウモリの棲む藪山の大開山登山

参加者 阿部国雄、田鎖寿、菊地

修身、石村実、石村日満子、鹿野松男、近藤有慶、近藤シズ、小口洋右、佐藤正、和田庄司、棚田房男、宮伸穂、松田和弘、畠山優、佐藤紀子、佐藤敏彦

第五回東北地区集会

六月六日の七時雨山荘での懇親会は、アルフレッド・本田宏彦氏(岩手支部)のアルパ・ケーナの夕べをバンパならぬ田代平牧野で、地元産、安代牛のバーベキューと、会員手作りの酒、岩手川、地場産ホップ入りの朝日麦酒、また、パラグライダーの畠山優氏のフライットで満喫した。

六月七日、旧津軽街道の寺田・車ノ走峠より権現山をへて一等三角点七時雨山頂へ、記念道標建立は、ポパイ・二上純一氏親子の力によるものだ。下山のち再会を期して解散、両日とも大快晴に恵まれた。

参加者 (秋田) 岡田光行、進藤昭、佐藤兼治、佐々木民秀、佐藤昭義、北村嘉鶴子、福田光子、打矢道雄。(福島) 中嶋正夫、古市義孝、相模八郎、八巻和男、清和良晴、野地克也、笹川慶子。

(山形) 村上勝太郎、水沢富一郎、阿部勇作。(宮城) 庄司駒男、吉野禎吉、千田早苗、佐々木豊喜、遠藤昭治、高橋功、吉井登、飯塚とみ子、野木晃三、相沢基平、熊谷正志、熊谷藤子。

(北海道) 平野明、柳田涼子。(東京) 井村桂子、荒本正弘。(地元岩手) 阿部国雄、和田庄司、藤正、棚田房男、畠山優、宮伸穂、二

上純一、二上真一(六歳)、浅野新一、関口安、菊地修身、近藤有慶、小野寺正英、石村実、石村日満子、渡辺博厚、刈屋敏彦、立花幹雄、鹿野松男、須々田秀美、松島静吾、本田宏彦、松田和弘、佐藤紀子、佐藤敏彦、他一名、以上六十名

(佐藤敏彦)



七時雨山荘と七時雨山

北海道支部総会

北海道支部総会は、五月三十日札幌駅前通り雪印パーラーで開かれ、昭和六十一年度事業報告、収支決算、昭和六十二年事業計画、収支予算、支部二十周年記念事業推進、支部役員選任案が、満場一致承認された。

このあと懇親会は、五月二十三日二十五日大雪山スキー脚競べ、各自山行や近況を語り、ビール、

スコッチウイスキーを酌み交わし二次会『鶴』へ移る。

リラの花盛りの大通りを横切り、総会には時間の都合で出席できなかった会員も、鶴では四、五人加わる威勢の良さ、語らいの輪は夜半まで続いた。

◎支部役員 支部長任期(二年)。副支部長 芳賀孝郎、小林年、野田四郎。支部委員・自然保護 辻井達一。会報 石井忠雅、小野肇、久保田優一。集会 柳田涼子、亀井秀子、澤田良子、三浦勝幸。海外 石崎貞子、高松秀彦。記念 高澤光雄、浅利欣吉、新妻徹。地域 河村章人。事務局 平野明。監事 井後幸太郎、木下恵子。

◎六十二年事業予定

七月十一・十二日 狩場山々行
十月十日 観月会
十二月十二日 支部忘年会
三月五・六日 スキー合宿

出席者 高澤光雄、山川力、三浦勝幸、水科行雄、柳田涼子、佐々木幸雄、新妻徹、栗村明信、佐々木喜一、久保田優一、河村皆子、小野肇、亀井秀子、橋本誠二、平野明、兼平治水、沼崎勝洋、佐々木孝雄

(平野明)

会務報告

五月理事会

5月13日午後6時30分

場所 本会ルーム
出席者 今西会長、山田、大塚副会長、鳴原、橋本、梅野、高遠、鈴木、岡沢、平井、大森、関塚各理事、松田、宮下、中村各評議員、委任 松永、大橋、絹川、太田各理事

審議事項

○ネパール神々と舞踏劇展の名義後援の件 承認
報告事項
○三国合同登山関係
今までの経過と今後の予定
○委員会報告
海外連絡委員会より、今後も海外のトレッキングを企画検討する総務委員会、その他委員会の報告



(5月)

7日 図書出版研究基金委員会
10日 医療委員会
12日 海外委講演会
13日 理事会
18日 図書委員会、博物館を考える会
19日 海外委講演会
22日 支部長会議、総会(私学会館)、婦人懇談会
23日 フィルム委映画会
26日 総務会、自然保護委
27日 海外委講演会
28日 会報編集委

29日 科学研究委
30日 山岳編集委
(5月来室者389名)



会員異動

終身会員へ
野田福五郎(三〇七九)
村上勝太郎(三〇四九)
福原 健司(四五三五)
坂倉登喜子(三〇四一)
物故
岩崎昭一(四五三八) 3・19
退会届
木村 信(八三五二)
藤田 英治(七九一六)
佐藤 広文(六〇八二)
雪標山岳会(六八三〇)
沢野 進(八九〇二)
鈴木善次郎(九五八二)
都竹 勝(五七六一)
副島 広之(六六三一)

図 書 受 入 報 告

図 書 委 員 会

昭和 62 年 2 月分受入図書

1. 藤本一美 田代博編著「展望の山旅」実業之日本社 1987 (版元寄贈)
2. 小野田文彬著「ネパールあっちこっち」清水弘文堂 1986 (著者寄贈)
3. 前田文彦編「東京アルコウ会々報創立 65 年」東京アルコウ会 昭和 62 (編者寄贈)
4. アサヒタウンズ編「高尾山」朝日ソノラマ 昭和 62 (版元寄贈)
5. 福知山市文化資料館編「福知山市文化資料館資料収蔵目録第 3 集」福知山市文化資料館 昭和 61 (編者寄贈)
6. 行田哲夫著「自然讃歌八ヶ岳」信濃毎日新聞社 昭和 61 (著者寄贈)
7. 山田哲郎 横山厚夫著「青空と輝く残雪の山々」茗溪堂 1987 (版元寄贈)

3 月分受入図書

1. 吉田昭市著「日本の名峰 25 大峰・台高・石鎚」山と溪谷社 1987 (版元寄贈)
2. 第一アートセンター編「日本写真全集 8 自然と風景」小学館 昭和 62 (版元寄贈)
3. 岳人編集部編「山の面白ノート」東京新聞出版局 昭和 62 (版元寄贈)
4. 尾形好雄編「日本ヒマラヤ協会年報 II」日本ヒマラヤ協会 昭和 58 (版元寄贈)
5. 日本ヒマラヤ協会編「高みを求めて」日本ヒマラヤ協会 昭和 62 (版元寄贈)
6. 仁藤祐治著「岳麓漫步 10 一枚の絵が写真から」悦声社 昭和 62 (著者寄贈)
7. 沢田賢一郎著「溪流のウェット・フライ・テクニック」山と溪谷社 1987 (版元寄贈)
8. W・ウェストン著 長岡洋三訳「ウェストンの明治見聞記」新人物往来社 昭和 62 (訳者寄贈)

4 月分受入図書

1. 新妻喜永著「日本の名峰 12 浅間・上毛三山・西上州」山と溪谷社 昭和 62 (版元寄贈)

2. 東京大学スキー山岳部カラコルム学術登山隊 1984 編「K7 初登頂」東京大学山の会 昭和 62 (編者寄贈)
3. 上村幹雄・通所運二共著「片雲往来 (続)」上村幹雄・通所運二 1987 (上村幹雄氏寄贈)
4. 橋本廣著「画文集 山麓紀行」能登印刷出版部 昭和 62 (著者寄贈)
5. 沢田賢一郎著「フライ・グラフィック・ウェットパターン 330」山と溪谷社 1986 (版元寄贈)
6. 玉村和彦著「聖山巡礼」山と溪谷社 1987 (版元寄贈)
7. 筑木力著「山頂へのみち」ほおずき書籍 1987 (著者寄贈)
8. 笠原藤七著「川内山とその周辺 再版」笠原藤七 昭和 62 (著者寄贈)

5 月分受入図書

1. 斎藤晃雄編「絵ときガイド中国」日本交通公社出版事業局 昭和 62 (増島達夫寄贈)
2. 1986 年横浜山岳会カラコルム登山隊編「チリン・7090」横浜山岳会 1987 (編者寄贈)
3. 加藤久一著「日本の名峰 5 鳥海・蔵王・月山」山と溪谷社 1987 (版元寄贈)
4. カモシカ同人編「日朝友好親善登山白頭山・金剛山・妙香山登頂報告書」カモシカ同人 1987 (編者寄贈)
5. 館野秀夫編「砂漠の涯の遠き頂」日本ヒマラヤ協会 昭和 62 (版元寄贈)
6. 西尾寿一著「鈴鹿の山と谷 1」ナカニシヤ出版 昭和 62 (版元寄贈)
7. 岩沢正平著「日本の名峰 6 飯豊・朝日連峰」山と溪谷社 1987 (版元寄贈)
8. 第 41 回国民体育大会山岳競技会場連合実行委員会編「第 41 回国民体育大会山岳競技会報告書」昭和 62 (日本山岳協会寄贈)

薬師義美氏寄贈 (以下 6 点)

9. "Alpinismus" 1964 No. 5~12; 1965 No. 1~4
10. "Österreichische Alpenzeitung" 1381~1392
11. "HIMAVANTA" Himalayan Foundation" Vol. 1~Vol. 5
12. Table générale des matières Inhaltsverzeichnis" 1925-1942
13. Repertorium für die Jahrbücher" XLV-LVIII
14. 「山と雪」日本登山協会 No. 120~No. 241

「A」の歴史を伝える貴重資料
日本山岳会『会報』覆刻日本を
会員に特別頒布中！

日本山岳会創立70周年記念出版『覆刻
日本の山岳名著』『新選覆刻日本の山岳
名著』の特別付録を会員に頒布中です。

①『会報』第一集 第一号(昭和5年)
第一〇〇号(昭和15年) 総索引付
B5判上製函入 八五二頁
頒価一四、〇〇〇円

②『会報』第二集 第一〇一号(昭和
16年)第二二〇号(昭和33年) 総索引
付 B5判上製函入一、一六四頁
頒価一四、〇〇〇円

《会員特典》 会員に限り一割引

第一集 一〇、八〇〇円
第二集 一一、六〇〇円

二冊合計 二三、四〇〇円(分売可)

《申込み方法》

■第一集・第二集の希望冊数、住所・氏
名・会員番号を明記の上、現金をそえて
日本山岳会事務局まで。現品は小社より
送料サービスにて直送いたします。

覆刻日本の山岳名著

企画・編集 日本山岳会……現金定価一九〇、〇〇〇円
全18点・22冊

新選覆刻日本の山岳名著

企画・編集 日本山岳会……現金定価一七五、〇〇〇円
全20点・29冊

〈内容見本呈〉

大修館書店 〒101 東京都千代田区神田錦町3-24 振替/東京9-40504 電話294・2221〈大代表〉

観光週間(八月一日～七日)の目的

- ①観光地の美化(ゴミの持ち帰り)
 ②正しい観光觀念の普及(国際交流にも資する点)
 ③その他(観光客を交通事故、火災事故等から守る)

総務委員会

昭和 61 年度収支計算書

自 昭和 61 年 4 月 1 日
 至 昭和 62 年 3 月 31 日

(1) 一般会計 収入の部

(単位: 円)

勘定科目		予算額	決算額	差異
大科目	中科目			
基本財産運用収入	基本財産利息収入	500,000	476,355	23,645
	入会金収入	3,000,000	3,300,000	-300,000
会費収入	通常会費収入	25,700,000	28,656,000	-2,956,000
	終身会費収入	0	1,300,000	-1,300,000
事業収入	会費収入計	25,700,000	29,956,000	-4,256,000
	広告料収入(山岳)		674,800	-674,800
事業収入	広告料収入(会報)		602,500	-602,500
	広告料収入(その他)		0	
小計	小計	1,000,000	1,277,300	-277,300
	印税収入	30,000	32,923	-2,923
刊行物売上収入	刊行物売上収入	450,000	728,900	-278,900
	その他事業収入	500,000	2,615,095	-2,115,095
山研使用料収入	山研使用料収入	1,380,000	1,252,079	127,921
	事業収入計	3,360,000	5,906,297	-2,546,297
寄付金収入	寄付金収入	0	100,000	-100,000
	受取利息	600,000	1,845,781	-1,245,781
雑収入	雑収入	250,000	876,865	-626,865
	小計	850,000	2,722,646	-1,872,646
特定預金取崩収入	退職給与引当金収入	0	700,000	-700,000
	取崩収入			
収入計		33,410,000	43,161,298	-9,751,298
前期繰越		11,087,389	11,087,389	0
合 計		44,497,389	54,248,687	-9,751,298

(2) 一般会計 支出の部

(単位: 円)

勘定科目		予算額	決算額	差異
大科目	中科目			
運営管理費	給料・手当	5,698,000	5,610,200	87,800
	文具・消耗品	80,000	199,005	119,005
印刷・製本費	印刷・製本費	800,000	854,890	-54,890
	旅費・交通費	550,000	519,100	30,900
通信・運搬費	通信・運搬費	1,000,000	914,890	85,110

	火災保険料	70,000	60,350	9,650	
	営繕費	100,000	18,800	81,200	
	諸税・会費	550,000	425,490	124,510	
	光熱水料費	250,000	524,627	-274,627	
	電話料	400,000	286,010	113,990	
	会議費	150,000	156,080	-6,080	
	什器備品費	100,000	448,100	-348,100	
	振替手数料	230,000	247,250	-17,250	
	支部運営費	0	0	0	
	福利厚生費	100,000	103,915	-3,915	
	事務所管理費	650,000	535,800	114,200	
	その他管理費	1,000,000	3,279,700	-2,279,700	
	負担金	0	135,000	-135,000	
	支払利息	0	143,161	-143,161	
	退職金	0	700,000	-700,000	
	雑費	300,000	346,544	-46,544	
	計	12,028,000	15,508,912	-3,480,912	
事業費	出版費(山岳)	5,000,000	3,463,876	1,536,124	
	出版費(会報)	4,000,000	4,301,804	-301,804	
	出版費(山日記)	500,000	404,300	95,700	
	図書費	650,000	867,580	-217,580	
	調査研究費	635,000	422,160	212,840	
	指導費	1,300,000	742,662	557,338	
	支部関係費	2,450,000	2,473,940	-23,940	
	海外諸関係費	200,000	1,116,990	-916,990	
	山岳研究所運営費	1,820,000	1,692,626	127,374	
	その他事業費	700,000	2,361,066	-1,661,066	
	印刷・製本費	1,000,000	0	1,000,000	
	通信運搬費	4,000,000	2,738,390	1,261,610	
	光熱水料費	370,000	0	370,000	
	計	22,625,000	20,585,394	2,039,606	
	固定資産支出	什器備品購入支出	0	340,000	-340,000
		長期借入金返済支出	3,312,000	5,621,689	-2,309,689
図書出版基金支出			375,089	-375,089	
長期計画積立金支出			1,496,320	-1,496,320	
登山特別基金支出			662,711	662,711	
終身会費積立金支出			1,300,000	-1,300,000	
退職給与積立金支出			0	0	
計		0	3,834,120	-3,834,120	
予備費	1,600,000	0	1,600,000		
小計	39,565,000	45,890,115	-6,325,115		

◎別途積立金(特定預金)

昭和 62 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

内 訳	前期繰越	繰入収入	取崩支出	次期繰越
終身会費積立金	1,250,000	1,300,000	0	2,550,000
図書出版研究基金	6,842,557	375,089	0	7,217,646
長期計画準備積立	5,303,381	1,496,320	0	6,799,701
登山特別基金	12,183,381	662,711	0	12,845,953
退職給与積立金	2,000,000	0	700,000	1,300,000
合 計	27,579,180	3,834,120	700,000	30,713,300

財 産 目 録

昭和 62 年 3 月 31 日現在

(資産の部)

1. 基本財産

(単位:円)

種 類	預 入 先	金 額
貸付信託	三井信託銀行 本店	2,380,000
"	日本信託銀行 本店	420,000
"	中央信託銀行 本店	5,200,000
	合 計	8,000,000

2. 現金および預貯金

(単位:円)

種 類	預 入 先	金 額
現 金		380,173
振替貯金	東京地方貯金局	497,830
普通預金	協 和 銀 行 市ヶ谷支店	7,116,130
"	三 菱 銀 行 市ヶ谷支店	303,320
"	三 和 銀 行 本郷支店	24,446
"	東 京 銀 行 本 店	13,792
"	中央信託銀行 本 店	6,126
"	三井信託銀行 新宿西口支店	1,026
"	日本信託銀行 本 店	15,725
定期預金	協 和 銀 行 市ヶ谷支店	0
普通預金	" (図書出版研究基金)	1,092,271
定期預金	" (")	6,124,875
"	" (長期計画準備積立金)	6,799,701
"	" (終身会費積立金)	2,550,000
"	" (登山特別基金)	12,000,000
普通預金	" (")	845,953
定期預金	" (退職給与積立金)	1,300,000
	合 計	39,071,372

3. 建物および土地

(単位:円)

A事務所および図書室	金 額
場所 東京都千代田区四番町5番4	
構造 鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下1階付階5建 (事務所) 区分所有建物1階部分 103.32 m ² 宅地持分 1,124.56 m ² ×339/10,000 (図書室) 区分所有建物1階部分 55.22 m ² 宅地持分 1,124.56 m ² ×176/10,000	72,720,170
B 上高地山岳研究所	
場所 長野県南安曇郡安曇村上高地国有林114い林小班	
構造 鉄筋コンクリート造(一部木造) 1棟 100.69 m ²	9,583,808
合 計	82,303,978

次期繰越	次期繰越収支差額	4,932,389	8,358,572	-3,426,183
合 計		44,497,389	54,248,687	-9,751,298

貸 借 対 照 表

昭和 62 年 3 月 31 日現在 (単位:円)

科 目	金 額
(1) 資産の部	
1. 流動資産	
現 金	380,173
振替貯金	497,830
普通預金	7,480,569
未収会費	3,059,000
棚卸資産	2,562,410
流動資産合計	13,979,982
2. 固定資産	
基本財産	
投資有価証券	8,000,000
基本財産合計	8,000,000
有形固定資産	
土 地	46,297,170
建 物	36,006,808
什器・備品	4,080,500
有形固定資産計	86,384,478
その他固定資産	
長期計画準備預金	6,799,701
図書基金積立預金	7,217,646
登山特別基金積立預金	12,845,953
終身会費積立預金	2,550,000
退職給与引当預金	1,300,000
その他固定資産合計	30,713,300
固定資産合計	125,097,778
資産合計	139,077,760
(2) 負債の部	
1. 流動負債	
前受会費	320,400
預 り 金	324,660
流動負債合計	645,060
2. 固定負債	
退職給与引当金	1,300,000
固定負債合計	1,300,000
負債合計	1,954,060
(3) 正味財産の部	
1. 基本 金	
基本 金	8,000,000
2. 剰 余 金	
次期繰越収支差額	8,358,572
次期繰越増減差額	120,774,128
剰余金合計	129,132,700
正味財産合計	137,132,700
負債及び正味財産合計	139,077,760

合 計	2,562,410
(負債の部)	
◆退職給与引当金	¥ 1,300,000
社団法人 日本山岳会 昭和 61 年度収支決算書および財産目録を監査し、正確妥当なことを認めます。	
昭和 62 年 4 月 7 日	
社団法人 日本山岳会	
監事 山 本 健一郎	

一 般 会 計

昭和 62 年度 予算書 (案)

自 昭和 62 年 4 月 1 日
至 昭和 63 年 3 月 31 日

1) 収 入 の 部 (単位: 円)

勘 定 科 目	予 算 額	前 年 度 予 算 額	増 減 (△)
大 科 目	中 科 目		
基本財産運用収入		400,000	500,000 △ 100,000
	基本財産利息収入	400,000	500,000 △ 100,000
入会金収入		3,000,000	3,000,000 0
	入 会 金 収 入	3,000,000	3,000,000 0
会費収入		36,100,000	25,700,000 10,400,000
	会 費 収 入	36,100,000	25,700,000 10,400,000
	終身会費収入	0	0 0
事業収入		3,360,000	3,360,000 0
	広 告 料 収 入	1,000,000	1,000,000 0
	印 税 収 入	30,000	30,000 0
	刊行物売上収入	450,000	450,000 0
	その他事業収入	500,000	500,000 0
	山研使用料収入	1,380,000	1,380,000 0
寄附金収入		0	0 0
	寄 附 金 収 入	0	0 0
雑収入		550,000	850,000 △ 300,000
	受 取 利 息	200,000	600,000 △ 400,000
	雑 収 入	350,000	250,000 100,000
別途会計運用収入		300,000	0 300,000
	図書出版研究基金収入		
	長期準備積立金収入	300,000	0 300,000
	登山特別基金収入		
小 計		43,710,000	33,410,000 10,300,000
前期繰越収支差額		8,358,572	11,087,389 △ 2,728,817
	前期繰越収支差額	8,358,572	11,087,389 △ 2,728,817
合 計		52,068,572	44,497,389 7,571,183

2) 支 出 の 部 (単位: 円)

大 科 目	中 科 目	予 算 額	前 年 度 予 算 額	増 減 (△)
運営管理費		17,290,000	12,398,000	4,892,000
	給 料 ・ 手 当	6,300,000	5,698,000	602,000
	消 耗 品 費	200,000	80,000	120,000
	印 刷 ・ 製 本 費	1,000,000	800,000	200,000
	旅 費 ・ 交 通 費	600,000	550,000	50,000
	通 信 運 搬 費	1,000,000	1,000,000	0
	火 災 保 険 料	70,000	70,000	0
	修 繕 費	100,000	100,000	0

4. 図 書

種 類	摘 要	冊 数
和 書	61 年度 受入冊数	315 冊
洋 書	61 年度 受入冊数	16 冊
		5678 冊
		2109 冊

5. 什 器 備 品

品 名	取 得 月 日	取得価格 (円)	所 在
大テーブル (2台セット) チーク材 750 × 1200 × 720	48. 7. 31	164,200	上 高 地
ソファセット, チーク材レザー張	48. 7. 31	178,000	上 高 地
書庫内移動書架一式, コンパッカル	53. 2. 10	1,500,000	図 書 室
店接セット一式, 張布イス, テーブル XLE-30	53. 8. 2	218,000	談 話 室
閲覧用テーブル (2台), 木製	53. 9. 28	250,000	図 書 室
ライティングビューロー, 木製	54. 6. 23	280,300	図 書 室
テレビ, シャープ CT-2501 (寄贈品)	55. 6. 4	80,000	談 話 室
ビデオカセットレコーダー, シャープ VC-7000	55. 12. 27	116,000	談 話 室
フィルム収納キャビネット (スチール製)	56. 8. 8	254,000	図 書 室
図書カード容器, 木製 3 段	56. 9. 12	200,000	図 書 室
書 棚, 木製 2 段	56. 12. 12	500,000	図 書 室
16mm 映写機 16-CL(MO)	61. 5. 13	156,000	図 書 室
MS パウチ H-140	61. 10. 17	95,000	事 務 所
東芝パーソナルワープロ WJ-R 70 FII	62. 3. 12	89,000	事 務 所
合 計		4,080,500	

6. 絵 画

題 名	種類, 号数	作 者 名	掲載, 保管場所
白 馬 岳 油	A-50	中村清太郎	日本民族資料館
富 士 山 麓 油	A-25	茨木猪之吉	日本民族資料館
田 代 池 の 白 樺 油	変形 6	中村清太郎	談 話 室
群 狼 墨	絵	石井 鶴三	図 書 室
伊 豆 半 島 油	一 10	茨木猪之吉	松本アルプス山岳館
針 の 木 峠 油	一 10	茨木猪之吉	図 書 室
徳本峠から穂高連峰	墨 絵	石田 吟松	松本アルプス山岳館
初 冬 の 両 神 山 油	一 10	茨木猪之吉	図 書 室
鳥 (カット原画)	墨 絵	石井 鶴三	図 書 室
メールドグラス	エッチング		図 書 室
モンブラン	エッチング		松本アルプス山岳館
カンチェンジュンガ	エッチング	シュレーギントワイト	図 書 室
ユングフラウ 油		山里 寿男	集 会 室
潤沢より北穂高	水彩 一 6	山里 寿男	松本アルプス山岳館
槍 ケ 岳 初 夏 油	一 10	中村清太郎	集 会 室
カンチェンジュンガ	パステル	矢崎千代二	談 話 室
北 穂 高 滝 谷 油	一 25	足立源一郎	談 話 室
或 朝 の 槍 ケ 岳 油	一 25	足立源一郎	集 会 室
北 穂 高 岳 主 峰 油	一 25	足立源一郎	集 会 室
槍 ケ 岳 油	一 P 8	足立源一郎	集 会 室
タンボチエの僧院	水彩 一 4	清野 恒	松本アルプス山岳館
シェルパニの親子	水彩 一 4	清野 恒	松本アルプス山岳館
冬の山 (清太山)	墨 絵	近藤 茂吉	松本アルプス山岳館
ブカヒルカ・ノルテ	水 彩	渡辺 九郎	事 務 室

※他の絵画, 写真省略

7. フィルム

「マナスルに立つ」他 62 点

8. 刊行物, 服飾品棚卸現在高 (単位: 円)

摘 要	金 額
刊行物 (山岳, 山岳覆刻版等)	1,343,340
服飾品, その他 (ネクタイ, ペンダント等)	1,219,070

6月2日	ポーランド隊来日講演と映画のタベ ザヴァダ他(安田生命ホール)
6月3日	ポーランド隊との交歓会(私学会館)
6月14,15日	懇親山行(上高地)
6月21,22日	若葉会山行(苗場山〜赤湯温泉)
7月12日	懇親山行(鳳凰三山)
8月9日	サー・エドモンド・ヒラリー献談会 (松本楼)
9月16日	会員懇談会「エンジェルフォール, ロライマ 登頂報告会」(本会)
10月10〜12日	懇親山行(袈裟丸山, 庚申山)
10月18日	懇親山行(大無間山)
10月25日	第19回山岳図書交換会(本会)
11月2日	現地小集会(会津セツヶ岳)
11月2,3日	九州山の集い'86 みやざき (高千穂荘, 三秀台, 祖母山)
11月11日	スライド映写と講演「花の谷とヘムクンド・ トレッキング」高本信子(本会)
11月13日	東洋大ヌン峰登山隊報告会(本会)
11月14日	会員懇談会「東京農大コンロン登山隊報告 会」織内信彦, 早坂敬二郎(本会)
11月15,16日	懇親山行(道志二十六夜山)
12月6日	支部長会議(本会)
12月6日	年次晩餐会(私学会館)
12月7日	懇親山行(高麗山)
12月7日	第23回学生部マラソン大会(皇居周辺)
12月21日	現地小集会(岩殿山)
1月17,18日	スキー山行(八方尾根)
2月1日	現地小集会(庚申山)
2月6,7日	スキー山行(万座)
2月14日	第18回山岳図書を語るタベ「山崎安治氏と 日本登山史」近藤信行(本会)
3月14日	第13回新入会員オリエンテーション (本会)
3月28日	第15回山岳史懇談会「昭和初期の慶大山岳 部」谷口現吉, 金山淳二(本会)
3月29日	現地小集会(鹿岳)
3月29日	懇親山行(若御子山)
(2) 研究会	
5月27日	シンポジウム「ポーランド隊の強さ・現代ヒ マラヤ登山をリードするクライマーと語る」 司会: 坂下直枝, 池田常道 ザヴァダ他ポーランド隊員(日本体育協会)
5月31日, 6月1日	第6回日本登山医学シンポジウム (聖マリアンナ医科大学)
7月12,13日	氷河地形探索山行 有井琢磨(木曾駒ヶ岳)
11月15日	第4回ヒマラヤのエコロジー・シンポジウム (日ネ協会との共催) 川喜田二郎, 大場秀章 杉浦嘉雄, 小島 寛, 千葉重美 (東京都教育会館)
11月28日	講演会「凍傷の予防と対策」 金田正樹(本会)
1月23日	講演会「大気の発光現象」中村純二(本会)
3月3日	セミナー「トレーニングとその効果」 堀井昌子(本会)
3月30日	講演会「高所登山における自己管理の問題」 高橋和之(本会)
(3) 講習会	
6月5日	岩場での遭難救助訓練・机上講習 金子利三, 榎本宅司(本会)

租 税 公 課	600,000	550,000	50,000
光 熱 水 料 費	620,000	620,000	0
電 話 料	500,000	400,000	100,000
会 議 費	300,000	150,000	150,000
什 器 備 品 費	100,000	100,000	0
振 替 手 数 料	250,000	230,000	20,000
福 利 厚 生 費	150,000	100,000	50,000
事 務 所 管 理 費	650,000	650,000	0
そ の 他 管 理 費	1,500,000	1,000,000	500,000
支 部 運 営 費	2,850,000	0	2,850,000
雑 費	500,000	300,000	200,000
事 業 費	25,481,000	22,255,000	3,226,000
出 版 費	11,000,000	9,500,000	1,500,000
図 書 費	700,000	650,000	50,000
調 査 研 究 費	655,000	635,000	20,000
指 導 費	1,185,000	1,300,000	△ 115,000
支 部 関 係 費	3,200,000	2,450,000	750,000
海 外 諸 関 係 費	500,000	200,000	300,000
山 研 運 営 費	2,041,000	1,820,000	221,000
そ の 他 事 業 費	1,000,000	700,000	300,000
印 刷 費	1,200,000	1,000,000	200,000
通 信 運 搬 費	4,000,000	4,000,000	0
借入金返済 支 出		0	3,312,000
借入金返済支出		0	3,312,000
別 途 会 計 繰 入 支 出	300,000	0	300,000
基 金 繰 入 支 出	300,000	0	300,000
予 備 費	1,800,000	1,600,000	200,000
予 備 費	1,800,000	1,600,000	200,000
小 計	44,871,000	39,565,000	5,306,000
次 期 繰 越 収 支 差 額	7,197,572	4,932,389	2,265,183
次 期 繰 越 収 支 差 額	7,197,572	4,932,389	2,265,183
合 計	52,068,572	44,497,389	7,571,183

昭和 61 年度事業報告

(61. 4. 1〜62. 3. 31)

1. 登山の指導と奨励に必要な集会, 講習会および展覧会の開催

(1) 集 会

4月2日	映画会「穂高は生きている」 神 慈明(本会)
4月6日	現地小集会(幕山)
4月12,13日	懇親山行(富士山)
4月15日	会員懇談会「東部カラコルム・マモストンカ ンリ初登頂報告会」尾形好雄(本会)
4月20日	新入会員との日帰りハイキング(扇山)
5月16日	支部長会議(本会)
5月16日	昭和 61 年度通常総会 (番町グリーンパレス)
5月23日	ポーランド隊来日講演会 ザヴァダ他 (大阪科学技術センター)
5月24,25日	東北シンポジウム'86(湯殿山)
5月25日	懇親山行(小樽山)
5月30日	山菜勉強会 片岡 博, 松本英一, 諏訪 武 (本会)
6月1日	第40回ウェストン祭(上高地)

6. 機関誌などの刊行

- ・「山岳」81年(1986年号)発行
- ・会報「山」490～501号、総目録(451～500号)の発行
- ・「山日記」1986年夏～1987年夏号を発行

7. 目的を同じくする外国山岳会との情報交換

- ・30カ国60の団体との情報交換
- ・日中合同登山推進のための中国団体協関係者との情報交換

昭和62年度事業計画(案)

(62.4.1～63.3.31)

1. 登山の指導と奨励に必要な集会, 研究会, 講習会および展覧会の開催

(イ) 集会

- 小集会(報告会, 講習会, シンポジウム, 山行)
 本会その他 約40回
- 東北地区集会 '87
 七時雨山 6月6日～7日
- ウェストン祭
 上高地 6月7日
- 岩登り講習会
 小川山他 6月
- 紅葉会 30周年記念集会 二軒小屋, 千枚岳
 10月10～12日
- 山岳図書交換会
 本会 10月
- 雪崩講習会
 本会 10月
- マラソン大会
 皇居周辺 11月
- 地方ブロック懇談会京都大会 比良山系
 10月31日～11月1日
- 熊本支部 30周年記念集会 阿蘇
 11月14～15日
- 年次晩餐会
 私学会館 12月5日
- 山岳図書を語る夕べ
 本会 2月
- 山岳史懇談会
 本会 3月
- 来日登山家との交歓会
 本会その他 未定
- フィルム映写会(海外, 国内)
 本会 未定
- 新入会員オリエンテーション
 本会 3月

(ロ) 研究会

- 登山医学シンポジウム
 未定 6月13日
- 高所登山シンポジウム
 未定 未定
- シンポジウム「ヒマラヤの生態系(V)」
 未定 11月
- 女性登山史
 本会 毎月
- セミナーの実施

(ハ) 展覧会

- この一本展(山岳図書, 文献類の展示)
 2月

(ニ) 講演会

- 登山, 山岳の科学研究に関する講演会
 (火山地形, 火山活動他)
 本会 未定
- 登山医学に関する講演会(高所障害防止他)
 本会 10月, 3月
- 内外登山家による講演会, 映画会
 本会その他 未定
- 海外の山に関する講演会
 本会その他 未定

2. 登山施設の改善, その他登山のための適切な事業

- 上高地山岳研究所開所
 4月～10月
- 登山医学シンポジウム記録の編集, 発刊
- 山岳と登山に関する科学文献整理
- 山に関する貴重なフィルム, スライド, テープ, アルバム等の複製および貴重な資料の収集, 整備, 管理

3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導

- 夏山診療所開設(槍ヶ岳, 他)
 7月～8月
- 技術講習会の開催(冬山, 岩登り, 山スキー等)現地4回
- 雪または氷上訓練
 2月または3月
- 大学山岳部指導者会議の開催
- 冬の遭難, 登攀技術問題についてのシンポジウム
 10月～11月

6月7,8日 岩場での遭難救助訓練・実技

榎本宅司他(小川山)

11月27日 雪崩講習会

松永敏郎(本会)

2月25～28日 山スキー講習会

(法大遠見ヒュッテ)

(4) 展覧会

8月28日～9月9日 近代絵画に見る日本の山・名作展

朝日新聞社と共催(上野松坂屋)

9月18～23日

同(大阪松坂屋)

10月21日～11月3日

同(愛知県文化会館美術館)

2月4日 第24回 この一本展「山崎安治氏所蔵和本」(本会)

(5) 全国にある21支部では, それぞれ集会, 研究会, 講演会, 山行(海外登山も含む)等が活発に行なわれた。

4月26,27日 岐阜支部設立15周年記念山行(能郷白山)

10月18,19日 越後支部設立40周年記念祝賀晩餐会, 記念山行(麒麟山温泉, 銘ガ森山)

11月8日 信濃支部設立40周年記念山行(有明山)

11月8,9日 第29回紅葉会(静岡支部)(寸又峽)

2. 登山施設の改善, その他登山のための適切な事業

- ・上高地山岳研究所を5月～11月まで開所
- ・山の科学に関する文献目録の作成
- ・登山に関する図書, フィルム, スライド類の充実と目録作成
- ・女性登山史のための資料作成
- ・山岳博物館準備のための資料収集と管理
- ・「登山医学」第5巻1号発行
- ・集会, 青年懇談会, 婦人懇談会, 高所登山, 遭難対策, 指導, 図書, フィルム, 海外連絡, 自然保護, 科学研究, 医療の各委員会による研究会開催

3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導

- ・各大学医学部山岳部による夏山診療所開設
 (槍ヶ岳, 穂高, 濁沢, 徳沢園, 五色沼, 唐松, 三俣山荘, 白馬岳, 合戦小屋, 立山, 尾瀬他)

4. 自然保護活動の推進

- ・環境庁との連携を密にし, 国立公園地域山岳地の自然保護に協力
- 7月26～27日 双六谷電源開発実態調査
- 11月1～3日 第12回自然保護全国集会

(別府市, 宮崎県宇目町)

(祖母山, 傾山)

12月14日 自然観察山行

(幕山, 南郷山)

2月17日 森林伐採と植林に関して林野庁担当官との懇談(本会)

3月16日 「双六谷上流地域の中中部山岳国立公園編入について」の要望書を環境庁長官宛提出

- ・フィールド・マナー・ノートII(中学, 高校生向け)作成, 配布

5. 海外登山の企画および海外との交流

- ・ポーランド隊来日交流登山
 (5月, 小川山, 富士山, 穂高岳, 城ヶ崎)
- ・8月20～22日 「国際アルピニスト・シンポジウム松本」
 講師: 海外8カ国15人, 国内9人
 (松本市音楽文化ホール)
- ・マナスル登頂30周年記念マナスル・トレッキング(11月)
- ・「ニュージーランド国際アルピニスト集会」に代表派遣
 2月28日～3月15日 マウント・クック, タスマン周辺の登山
- ・中国・日本・ネパール 1988年チョモランマ/サガルマタ友好登山
 2月14日 北京にて三国合同登山実施の議定書に調印

6. 機関誌などの刊行

- 「山岳」第 82 年 (1987 年) 発行
- 会報「山」第 502 号～第 513 号発行
- 「山日記」1987 年夏～1988 年夏版編集発行
- 「山岳」の総索引の作成

7. 国内及び国外山岳団体との連絡、情報交換

- 国内関係団体 (日山協、都岳連、その他) との密接な連絡
- 海外登山団体との機関誌および情報の交換

8. その他、目的を達成するために必要な事業

- 山岳図書室の拡充を図る
- その他、目的を達成するために必要な事業を行う

4. 自然保護活動の推進

- 自然保護に関する講演会 (登山と野生動物保護)
- 自然観察山行
- 自然環境保全および破壊の現地視察
- 自然保護全国集会
- 自然保護活動のための研修会

5. 海外登山の企画および実施

- 日、中、ネ三国合同登山 ('88) の準備
- アメリカ山岳会との交流登山
- 朝鮮民主主義人民共和国での友好登山 (金剛山および白頭山)



☎ 234-6659

この電話で
お知らせ
しています

●ビール・パーティ

のお知らせ

恒例のビール・パーティを催します。今年も婦懇の力作の料理。

日時 九月五日 (土)

五・〇〇PM～七・〇〇PM

場所 日本山岳会 集会室

会費 二千元

乞ご期待!

飲み放題! 食べ放題!

地方会員の方の参加大歓迎!

婦人懇談会

●フイーゲルのすすめ

— 講演と製作実演 —

期日・場所

九月八日 (火) 六時三十分より、本会ルームにて

講師 講演 玉木正之

製作実演 松丸秀夫

フイーゲルは短いスキーで、残雪期の山行に極めて有効に使えます。

短いフイーゲルは長さ四九センチ、両方で七〇グラムのものもあり、これで白馬の大雪渓を快調に

滑り下ることが出来ます。

乗鞍の大雪渓ではスラローム大会が行なわれます。

やや長目のフイーゲルはフィギュアスキーをやるようにも作れますし、目的に応じて、いろんなものを作れば興味深いものです。フイーゲルについて各面の話と製作の実演を行います。

科学研究委員会

●シンポジウム 予告

テーマ 「危険な動物と安全登山」

○ツツガムシの生態と対応、治療

○マムシの習性、生息状況と対応、治療

○ダニ、ブヨ、ムカデ、ハチの生息状況と対応、治療

○ヒルの習性、生息状況と対応、治療

○ツキノワグマ、ヒグマの習性、生態と対応

期日 六十二年十一月七日 (土) 一時三十分より五時まで。

●昭和六十二年度地方ブロック懇談会予告

期日 十月三十一日 (土) ～十一月一日 (日) 二日間

名称 日本山岳会 比良の集い

内容 京都市内で講演会の後、バスでびわ湖西の比良山麓へ移動、懇親会。翌日比良連峰登山

★詳細は後日お知らせします。

京都支部

講師 会場は次号以下に発表の予定。

科学研究委員会

●62年度図書交換会

十月二十四日 (土) 午後二時より本会ルームにて恒例の図書交換会を行います。

お手もとにある不要な山の本を持ち寄り、必要なものと交換するというのが本来の主旨です。出品ご希望の方はご連絡下さい。

図書委員会

お願い…図書室蔵書の欠号のうち「山と溪谷」の戦前号を余分にお持ちの方お願ひ下さい。

34、43、46、49、51、53、55、58、60、72の各号 事務局 (訂正・追加)

会報50号9ページの広瀬潔氏に関する記事のうち、一八〇六年十二月八日生とあるのは一八九六年十二月八日生ですので訂正下さい。また502号ページの、第十回若

業会山行参加者の氏名に、入谷浩右氏の名前が抜けておりましたので、ご追加をお願いいたします。

(編集)

あとがき 今年のツユはカラツユで、関東地方の水不足も本格化の様相だ。

▼六月のウェストン祭で徳本峠を越えたとき、峠や峠の西側にゴツゴツある残雪が、今年はばかに少なく、雪渓を使って沢を下るパイパスが利用できず、少々もの足りなかったことを思い出す。

▼今年の夏は水不足になる、と誰だったかが口にしたが、それがとうとう現実となった。

▼せめて山に登る者くらいは、この夏、せせと山をたくさん稼いで、都会の水不足解消に貢献したらどうか。

▼今年の夏は厳しい夏になりそうだ。

▼どうか、よい夏を!

(岡沢)

昭和六十二年七月二十日発行

102 東京都千代田区四番町五一四 サンビュウハイツ四番町

発行所 社団法人 日本山岳会

発行者 今 西 寿 雄

編集代表 岡 沢 祐 吉

電話東京 (03) 四四三三

振替口座 東京三三二八六

東京都港区赤坂一三六

印刷所 株式会社 技報堂